

第6回生駒市総合計画審議会（全体会）会議録

開催日時 令和6年2月5日（月）10時00分～11時40分

開催場所 市役所 大会議室

出席者

（委員）大谷委員、清水委員、久委員、伊藤委員、楠委員、鐵東委員、中垣委員、
藤尾委員、上山委員、松山委員、山上委員

欠席者 高取委員、田中委員、森委員、和田委員

（事務局）坂谷市長公室次長、牧井企画政策課課長補佐、桐谷企画政策課企画課員、
岩川企画政策課企画課員

知浦行政経営課長、掛樋行政経営課主幹、島田行政経営課経営係長

議事内容

1 開会

2 案件

- （1）パブリックコメントの結果について
- （2）市議会からの意見について
- （3）第2期基本計画（案）について
- （4）第2期基本計画（案）の答申について
- （5）その他

3 閉会

以下、発言要旨

1. 開会

【事務局】 （開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

2. 案件

【久会長】 今回は第2期基本計画（案）のパブリックコメントの結果及び第2期基本計画（案）の答申等について審議する。

(1) パブリックコメントの結果について

【久会長】 まずは第2期基本計画(案)のパブリックコメントの結果について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1-1、1-2について説明)

【久会長】 パブリックコメントの意見の中には、施策に対するものではなく、事業レベルでの意見も散見されるが、担当課との情報共有はされているか。

【事務局】 パブリックコメントでいただいた意見については、担当課と共有した上で回答(案)を作成している。今回の資料で「原案のとおり」と記載している場合も、次年度事業等を記載するアクションプランへの反映を検討したり、今後の進行管理で確認したり、丁寧に対応したいと考えている。

【久会長】 パブリックコメントの意見に対して回答をする際に、冒頭の説明文などで担当課へ共有している旨を記載することで、意見を提出して下さった方に安心感を与えられる。

子育てに関するご意見を多くいただいている。子育て層に向けて、市民の一人が周知してくれたと聞いている。知り合いに声をかけてもらうと意見が集まるので、次回のパブリックコメントを実施する際も対応を検討されたい。

【松山委員】 資料1-2 No.20の変更内容について、「職員研修」という文言が追記されているが、昨今「リスクリング」という言葉が浸透してきていることから、「リスクリング」という表現の方が良いのではないか。

【事務局】 リスクリングの概念は普及してきており、特に管理職や経験を積んだ職員などが学びなおすことを指していると捉えている。本市においても、実際に管理職を対象に様々な研修を実施している。

一方で、施策IVには、新人職員や若手職員に対する研修や、複雑・多様化する課題に対応していくための研修なども含んでおり、リスクリン

グより広義の意味を持つ職員研修と記載している。

(2) 市議会からの意見について

【久会長】 市議会からの意見について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料2について説明)

【久会長】 ご意見等はあるか。

【各委員】 (意見なし)

(3) 第2期基本計画(案)について

【久会長】 第2期基本計画(案)について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料3、4について説明)

【楠委員】 市議会からの意見の多くは基本計画に反映されているが、パブリックコメントの意見は反映されているものが少ないと感じる。公平に見ていると思うが、一般市民から見るとそういう懸念が生じるのではないか。

【事務局】 意見の提出に至る過程に違いがあると考えている。市議会特別委員会は、昨年夏から複数回会議を開催し、今回の意見についても、委員会として議論し具体的な提案となっている。

一方、パブリックコメントでは、市民が普段の生活で感じていることや行政サービスを受けた上での意見が中心であり、総合計画に紐づくアクションプラン等にて、記載する意見が多かったと感じている。

市民から提出いただくパブリックコメントについても、基本計画に記載すべき内容となるような仕掛けやプロセスが必要であると感じており、引き続きパブリックコメントにおける課題であると認識している。

【久会長】 川西市では、パブリックコメントをどのように書いたら良いか、といった意見の書き方に関する講座を実施している。「何ページのここを、

このように修正してください」といった具体的な意見は反映される可能性が高い。市民からの意見は、個人的な思いや考えに関することが多く、変更箇所などの内容が行政に伝わりにくいことがある。また、総合計画の特性上、事業レベルの内容は反映が難しいという点も挙げられる。市民に対して、意見の書き方などを伝え、意見が出やすくなるようにするといった工夫も必要である。

【伊藤委員】 No.9について、各論のタイトルに「医療」を追加することは良いことだと思うが、総合計画には医療の要素が少ないと感じる。生駒市立病院等の取組は、もう少し記載した方が良いのではないか。

【事務局】 第1期基本計画では、「健康づくり」と「医療」は別の小分野に分かれていたが、第2期基本計画では、親和性のある施策についてはより連携を促進できるよう施策体系の再編を行った。

生駒市立病院等を含む医療に関する取組については、施策7の施策の方向性の(2)で記載している。当該施策に紐づくアクションプランについては、市立病院の開業10周年を迎える令和7年に向けて、担当課で具体的な事業を検討していくと聞いている。いただいたご意見は担当課に共有する。

【久会長】 生駒市立病院に関する内容は、分野別計画やアクションプランに紐づくと考えられる。

生駒市には近畿大学奈良病院も立地しており、高度医療に特化している。一方で、生駒市立病院は高度医療と市民医療の両方を担っている。身近なクリニックや診療所を受診し、状況によって総合病院を受診するという国の方針もあるが、生駒市立病院については、身近な病院としての機能も活かしつつ、高度医療の担い手としても連携を進めていくことや、最寄りの診療所や大学病院などと連携して、地域医療を充実させていくという方向性が記載されていると認識している。

【大谷委員】 施策4学校・教育について、大人目線の内容は充実している一方で、子ども目線の内容が少ないように感じた。子どもの権利条約等もあるが、子ども自身が条約を知り、権利として認識できることが大切だと思

う。子どもに周知し、浸透させることで、虐待やネグレクト、ヤングケアラー等の問題を、子ども自身が認識し発信することができ、解決につながるることができるのではないかと。

【事務局】 教育委員会でも、子ども自身がSOSを発信することは重要であると考えており、子どもに対してSOSの発信に関する講座を実施したり、教職員に対しては、発信されたSOSをどのようにくみ取るかといった内容の研修を実施している。

また、子どもに配布しているタブレットから専門機関に直接連絡できるようにしている。こういった取組が子どもの権利とどのようにつながっているか、体系として整理し、説明することも重要だと考える。

【久会長】 学校の先生自身が学びなおすことも重要である。以前は、教員免許の更新には講習を受けることが必要であり、時代や社会の変化、子どもへの接し方等を学ぶ機会があったが、現在は無くなってしまった。

東大阪市では、希望する教職員に向けて環境やSDGsについて研修をしたが、学ぶ意欲がある教職員に対して、担当教科以外の研修機会があると良いと思う。

(4) 第2期基本計画(案)の答申について

【久会長】 第2期基本計画(案)の答申について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料5について説明)

【久会長】 ご意見等はないか。

【各委員】 (意見なし)

【久会長】 それでは、特に意見等がないため、本日の案を、本審議会の答申とする。

(5) その他

【久会長】 その他、全体について、ご意見やご質問はあるか。第2期基本計画策

定に係る審議会は、今回が最終であるため、これまでのことを含めて意見などはあるか。

【松山委員】 楠委員がおっしゃったパブリックコメントの反映に関する件について、市民にとっては内容を確認する期間が短く、得られる情報も少ないため意見を出しにくい。また、意見の書き方もなじみがないのでわからない。良い意見を持っている人はいるので、パブリックコメントの実施方法を検討されたい。

【久会長】 市民にとって総合計画がどういった位置づけか、という認識の浸透を図られたい。それぞれの分野別計画の範疇であっても、どこで意見を述べていいかわからず、今回のように総合計画のパブリックコメントで意見を提出することがある。市には他の計画があることを伝えていくことも必要である。

尼崎市では、総合計画の各論を分野別計画と連動させている。総合計画として改めて内容を作成するのではなく、分野別計画から柱となるものをピックアップすることで、総合計画と紐づくようにしている。なお、総合計画と分野別計画に変更が生じる場合は、双方を変更するようにしている。

【鐵東委員】 計画を作ることがゴールではなく、定めた目標の達成に向けて取り組んでいく必要がある。ともすれば、各課は現状で達成できそうなことに取り組む傾向があるが、自部署だけでなく他部署との連携無くして基本計画の達成は不可能である。どうすれば目標を達成できるか考え、取組を進めていく必要がある。難しいゴールなので、従来の方法ではなく、発想を変えて取り組んでいくことが大切であり、取り組んだ結果として、達成できなかったとしても、チャレンジすることが職員の成長につながると思う。

【久会長】 様々なことにチャレンジしてほしいが、市の業務は多くのチェックが入るため、どうしても無難なところに落ち着いてしまう傾向があると思う。失敗を認められる環境があれば、チャレンジを続けることができる。温かい目で、チャレンジしたことを評価することも大切である。

【 楠 委 員 】 市民として様々なことに取り組んできたが、総合計画は範囲が広く、内容が深いと思う。各課からは、市の重要な計画と捉えて、一丸となって進める意欲を感じた。今後は、第2期基本計画に基づく取組を進めながら、何ができて何ができなかったかを把握し、PDCAサイクルを回して、課題の解決に向かって進められたい。

優秀な人がチャレンジしやすい環境を作るため、減点主義ではなく加点主義で進めてほしいと思っている。生駒市は、全国的に評価が高いと思っており、市民であることに誇りを持っている。行政、市民、事業者が連携して進めてほしい。

【 久 会 長 】 総合計画は誰のものなのか、という考え方もできるのではないか。尼崎市では、策定段階で多くの市民が関わっているため、当時の市長は自身の挨拶文は差し込みとし、市長が交代した際も対応できるようにしている。あくまで、市民と一緒に作ったものであり、市役所のものではないという考えである。

第2期基本計画で定めた目標を達成するためには、市の頑張りだけでは成果が出ないので、市民と一緒に取り組む体制を構築されたい。

【 清 水 委 員 】 パブリックコメントについて、意見の提出を呼び掛けた市民がいたことこそ、市民協働であると感じる。市民の意見については、できる範囲でもう少し反映させる方法を検討してほしいと感じる。

策定過程において、各課の声を直接聞いたことは良かったが、コメントの端々に自身の業務を擁護するようなことがあったと記憶している。総合計画審議会の場合も評価一辺倒になると、各課も身構えてしまうので、計画をより一層推進していくうえでの困りごとを共有し、ともに課題解決の方法を模索するような会議になると良いのではないかと感じた。

【 久 会 長 】 第2期基本計画の策定について、総合計画審議会としての取組は終了となるが、これまでの審議等について、所感を述べる。

第1期基本計画期間では、新型コロナウイルス感染症を経験し、社会の変化するスピードが上がってきていると感じている。特に、生成AIの実用化は大きなインパクトがあり、生駒市としても、これまでの取組を少し変えるといった小さな変化ではなく、抜本的に変えていく必要があると考えている。

こういった状況下においても、行政には質の高いサービスを安定的に提供することが求められるため、本日の審議において、松山委員からリスキリングに関するご意見があったが、職員の学び直し等も含めて変化する必要がある。また、市民活動を行う団体についても、社会の変化に合わせて変わっていかざるを得ない状況を迎えると思う。

その他にも、縦割り行政をどのように打破していくかといった課題について、茨木市の例を紹介したいと思う。茨木市は文化・子育て複合施設「おにクル」を昨年開設し、「育てる広場」をコンセプトに、毎月、マネージャー級の会合と現場スタッフの会合の2回を開催し、横串を通す取組を進めている。実際に横串を通そうとすると、会議の回数は必然的に増え、職員の負担は増加する。市民を巻き込む場合は、さらに負担が大きくなるが、行政として協働を進めていくにあたり、どこまで踏み込んでいくことができるのかが重要である。手間がかかり、負担も増えるが、協働の促進に向けてぜひ取り組んでほしい。

宝塚市で市民協働に関する取組をお手伝いさせていただいたが、「協働は大変、でも楽しい」というキャッチフレーズを使っている。楽しいだけではなく、意見が異なる人との調整など、負担が増えることもあるが、協働を進めるためにはぜひ取り組んでもらいたい。

【 事 務 局 】（庶務連絡、閉会宣言）

— 了 —